

質問 がんて治療中にいつ起こるかもしれない南海トラフ巨大地震や大雨による浸水被害などの大規模災害発生時への備えとして、どのようなことができるでしょうか。

治療中災害への備え

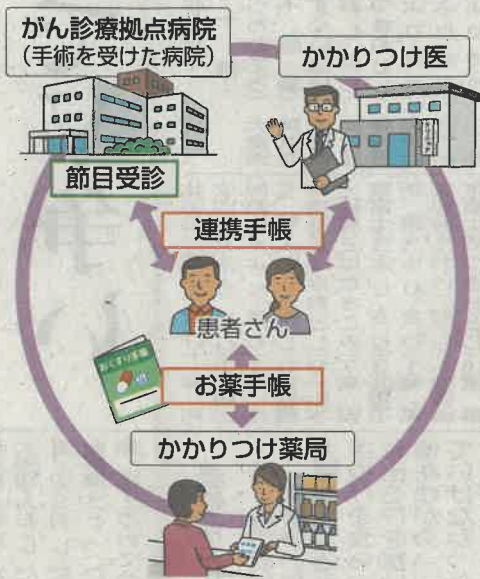


鎌村 好孝
県保健福祉部
医務技監

回答 今年、能登半島では、元日に大地震が発生しました。復旧・復興に向けて取り組みが進められているさなか、9月には大雨による多大な被害があったほか、8月には南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が初めて発令されるなど、これらを機に日頃からの災害への備えを見直した方も多かったことと思います。

がんと診断され通院治療をしている方にとって、発災後、通院困難となる場合も想定されることから、日頃から主治医に「災害が起きたら、どうしたらいいのか」について確認しておくことが役に立つと考えます。そのツールの一つとして「治療の記録ノート」があります。この手帳は、患者の検査データや経過を、地域のかかりつけ医

共有病状活用し帳録記



主治医の意見書き添えて

やかかりつけ薬局などと、がん診療連携拠点病院やがん治療の専門医などが、共通の情報として共有・連携するための連絡帳です。この手帳を医師らとの円滑なコミュニケーションツールとして活用することで、いざというときにも役立ててほしいと思います。



がん何でもクイズ
QOLとは何のことですか。

- ①生活の質②治療の質③医療の質

行こうよ！がん検診

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで) へ。



徳島県では、病診・病連携に当たり、これまでに肺、乳、甲状腺、婦人科、前立腺、食道、胃、大腸の各がんの「治療の記録ノート」があり、主にがん診療連携拠点病院の主治医から患者に手渡す仕組みとなっていました。記載内容としては、患者の基本情報、連携医療機関、既往歴、治療の記録（病状や治療内容、

手帳の最後の部分には、「災害に備える」ということで「非常持ち出し品チェックリスト」もあります。定期的な受診の際に、災害時への備えとしての主治医の意見や言葉などをメモしておくことで、「お薬手帳」定期のお薬は少し余裕を持つて」と共にいざというときに活用してほしいと願っています。

そして今後は、医療DX推進による全国医療情報プラットフォームの構築の中で電子カルテ情報の共有や電子処方箋の普及などが図られ、災害時などの有事に迅速な医療情報共有ができるようになることで、がん患者にとっても災害時への備えにつながることを期待しています。